

GA-B85M-D3H

ユーザーズマニュアル

改版 1001

12MJ-B85MD3H-1001R

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,
G.B.T. Technology Trading GmbH
Address: Bülenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany
Declare that the product
Product Type: Motherboard
Product Name: GA-B85M-D3H

conforms with the essential requirements of the following directives:

2004/108/EC EMC Directive:

<input checked="" type="checkbox"/>	Conduction & Radiated Emissions:	EN55022:2006+A1:2007
<input checked="" type="checkbox"/>	Immunity:	EN50524:1998+A1:2001+A2:2003
<input checked="" type="checkbox"/>	Power-line harmonics:	EN61000-3-2:2006
<input checked="" type="checkbox"/>	Power-line flicker:	EN61000-3-3:2008

2006/95/EC LVD Directive

<input checked="" type="checkbox"/>	Safety:	EN60950-1:2006+A11:2009
-------------------------------------	---------	-------------------------

2011/65/EU RoHS Directive

<input checked="" type="checkbox"/>	Restriction of use of certain substances in electronic equipment:	This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive.
-------------------------------------	---	--

CE marking



(EC conformity marking)

Signature: Timmy Huang

(Stamp)

Date: Apr. 19, 2013

Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street
City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-B85M-D3H

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109
(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any inference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Apr. 19, 2013

著作権

© 2013 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

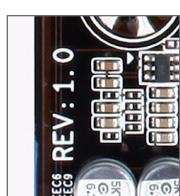
このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。

このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

- 本製品を最大限に活用できるように、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。
- 製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：
<http://www.gigabyte.com>

マザーボードリビジョンの確認

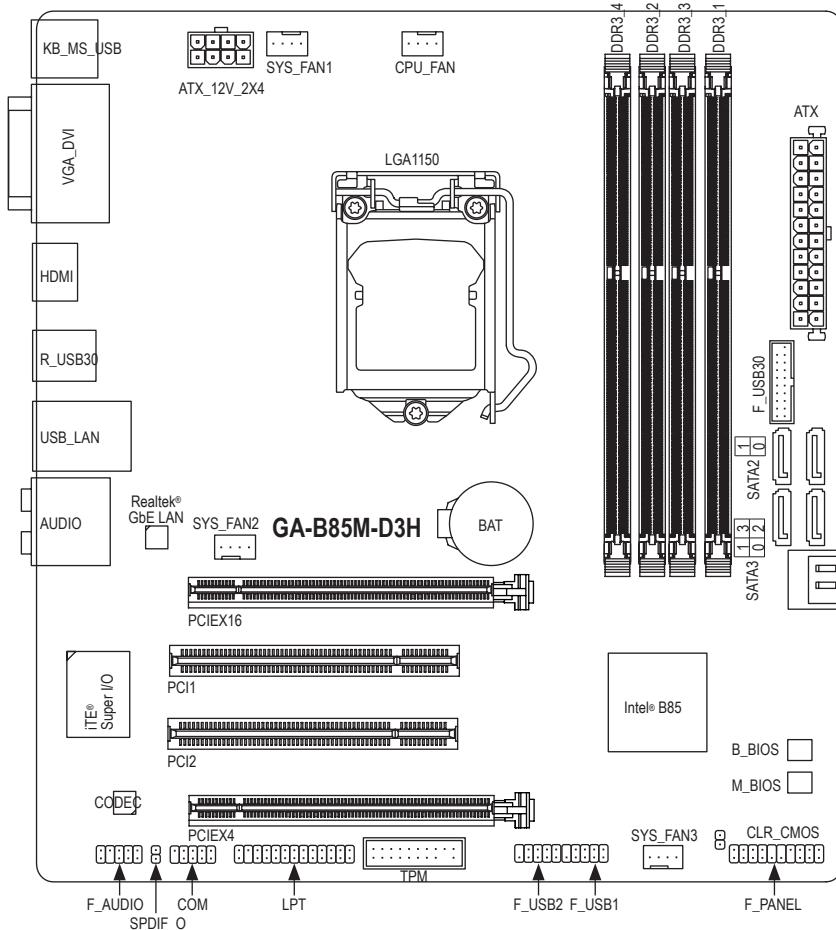
マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報を探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。例：



目次

GA-B85M-D3H マザーボードのレイアウト	4
GA-B85M-D3H マザーボードブロック図.....	5
第 1 章 ハードウェアの取り付け	6
1-1 取り付け手順.....	6
1-2 製品の仕様	7
1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け	9
1-4 メモリの取り付け	9
1-5 拡張カードを取り付ける.....	10
1-6 背面パネルのコネクター.....	10
1-7 内部コネクター	12
第 2 章 BIOS セットアップ	18
2-1 起動画面.....	19
2-2 M.I.T.	19
2-3 System (システム).....	24
2-4 BIOS Features (BIOS の機能)	25
2-5 Peripherals (周辺機器).....	28
2-6 Power Management (電力管理).....	31
2-7 Save & Exit (保存して終了)	32
第 3 章 ドライバのインストール	33
規制声明.....	34
連絡先	36

GA-B85M-D3H マザーボードのレイアウト

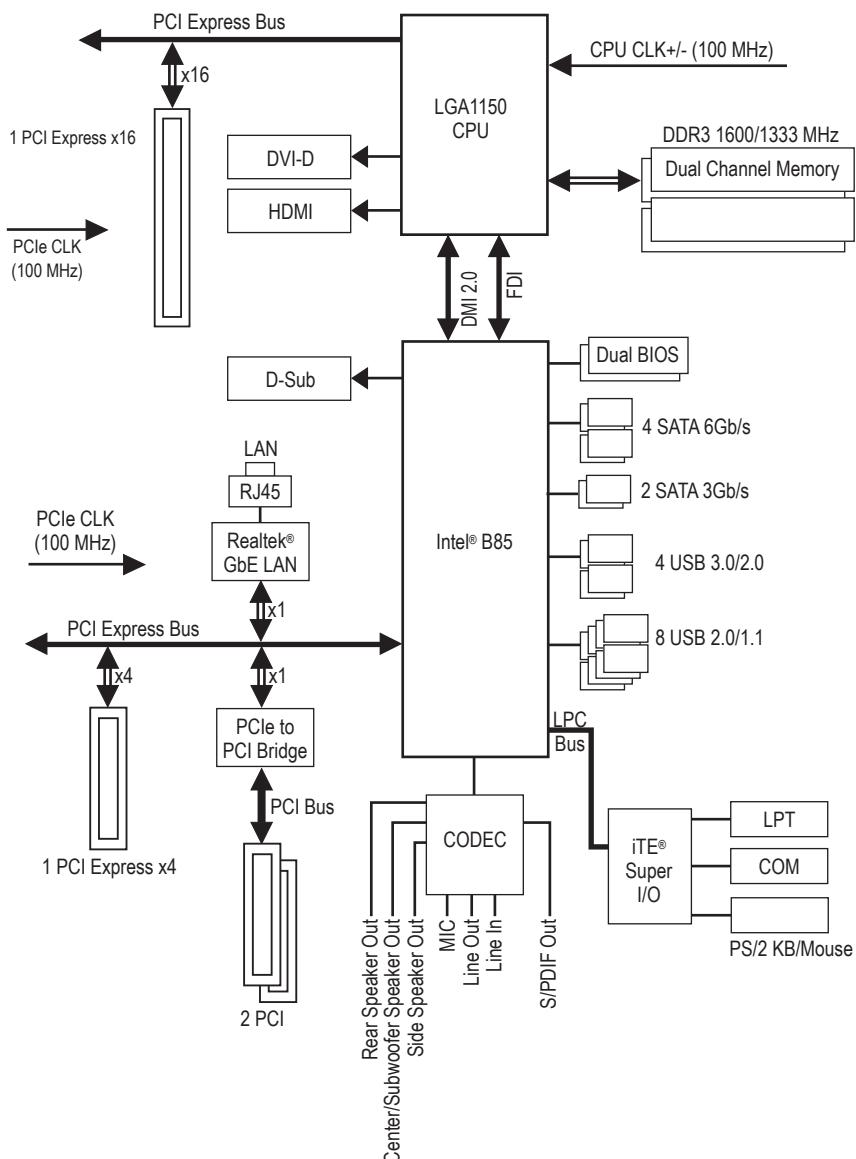


ボックスの内容

- GA-B85M-D3Hマザーボード
- マザーボードドライバディスク
- SATA 6Gb/sケーブル (x2)
- ユーザーズマニュアル
- I/O シールド
- クイックインストールガイド

上記、ボックスの内容は参考用となります。実際の同梱物はお求めいただいた製品パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。

GA-B85M-D3H マザーボードブロック図



製品の情報/制限の詳細は、"1-2 製品の仕様" を参照してください。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電(ESD)の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、PCケースがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付ける前に、マザーボードのS/N(シリアル番号)ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクターに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクターには触れないでください。
- マザーボード、CPUまたはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電(ESD)リストストラップを着用することをお勧めします。ESDリストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクターが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- 取り付けの手順について不明確な場合や、製品の使用に関して疑問がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

 CPU	<ul style="list-style-type: none">◆ LGA1150 Intel® Core™ i7プロセッサ/Intel® Core™ i5プロセッサ/Intel® Core™ i3プロセッサ/Intel® Pentium® プロセッサ/Intel® Celeron® プロセッサのサポート (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)◆ L3 キャッシュは CPUにより異なります
 チップセット	<ul style="list-style-type: none">◆ Intel® B85 Express チップセット
 メモリ	<ul style="list-style-type: none">◆ 最大 32GB のシステムメモリをサポートする 1.5V DDR3 DIMM ソケット(x4)<ul style="list-style-type: none">* Windows 32ビットオペレーティングシステムの制限のため、4GB以上の物理メモリを取り付けた場合、表示される実際のメモリサイズは取り付けた物理メモリのサイズより小さくなります。◆ デュアルチャネルメモリ対応◆ DDR3 1600/1333 MHz メモリモジュールのサポート◆ 非 ECC メモリモジュールのサポート◆ XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTE の Web サイトを参照ください。)
 オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none">◆ 統合グラフィックスプロセッサ:<ul style="list-style-type: none">- D-Sub ポート(x1)、1920x1200 の最大解像度をサポートします。- DVI-D ポート(x1)、1920x1200 の最大解像度をサポートします。<ul style="list-style-type: none">* DVI-D ポートは、変換アダプタによる D-Sub 接続をサポートしていません。- HDMI ポート(x1)、4096x2160 の最大解像度をサポートします。<ul style="list-style-type: none">* HDMI バージョン 1.4a をサポート。- 最大 1GB までのメモリをシェア可能
 オーディオ	<ul style="list-style-type: none">◆ Realtek® ALC892 コーデック◆ ハイディフィニションオーディオ◆ 2/4/5.1/7.1 チャンネル<ul style="list-style-type: none">* 7.1 チャンネルオーディオを有効にするには、HD フロントパネルオーディオモジュールを使用して、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。◆ S/PDIF アウトのサポート
 LAN	<ul style="list-style-type: none">◆ Realtek® GbE LAN チップ (10/100/1000 Mbit)
 拡張スロット	<ul style="list-style-type: none">◆ PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で動作 (PCIEX16)<ul style="list-style-type: none">* 最適のパフォーマンスを出すために、PCI Express グラフィックスカードを 1つしか取り付けない場合、PCIE16 スロットに必ず取り付けてください。 (PCI Express x16 スロットは PCI Express 3.0 規格に準拠しています。)◆ PCI Express x16 スロット (x1)、x4 で動作 (PCIE4)◆ PCI スロット (x2)
 マルチグラフィックステクノロジ	<ul style="list-style-type: none">◆ AMD CrossFire™ テクノロジーのサポート
 ストレージインターフェイス	<ul style="list-style-type: none">◆ チップセット:<ul style="list-style-type: none">- 最大 4つのSATA 6Gb/s デバイスをサポートする 4 x SATA 6Gb/s コネクター (SATA3 0/1/2/3)- 最大 2つのSATA 3Gb/s デバイスをサポートする 2 x SATA 3Gb/s コネクター (SATA2 0/1)
 USB	<ul style="list-style-type: none">◆ チップセット:<ul style="list-style-type: none">- 最大 4つのUSB 3.0/2.0 ポート (背面パネルに2つのポート、内部USB ヘッダーを通して2ポートが使用可能)- 最大 8つのUSB 2.0/1.1 ポート (背面パネルに4つのポート、内部USB ヘッダーを通して4ポートが使用可能)

 内部コネクター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクター (x1) ◆ 8 ピン ATX 12V 電源コネクター (x1) ◆ SATA 6Gb/s コネクター (x4) ◆ SATA 3Gb/s コネクター (x2) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x3) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ USB 3.0/2.0 ヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ パラレルポートヘッダ (x1) ◆ トラステッドプラットフォームモジュール(TPM)ヘッダー (x1) ◆ CMOSクリアジャンパ (x1)
 背面パネルのコネクター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PS/2 キーボード/マウスポート (x1) ◆ D-Sub ポート (x1) ◆ DVI-D ポート (x1) ◆ HDMI ポート (x1) ◆ USB 3.0/2.0 ポート (x2) ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x4) ◆ RJ-45 ポート (x1) ◆ オーディオジャック (x6) (センター/サブウーファースピーカーアウト、リアスピーカーアウト、サイドスピーカーアウト、ラインイン/マイクイン、ラインアウト)
 I/O コントローラー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ iTE® I/O コントローラーチップ
 ハードウェア モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム電圧の検出 ◆ CPU/システム温度検出 ◆ CPU/システムファン速度検出 ◆ CPU 過熱警告 ◆ CPU/システムファンの異常警告 ◆ CPU/システムファン速度制御 <ul style="list-style-type: none"> * ファン速度コントロール機能がサポートについては、取り付けたクーラーによって異なります。
 BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 64 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AMI EFI BIOS を搭載 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a, DMI 2.0, SM BIOS 2.6, ACPI 2.0a
 独自機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress Install のサポート ◆ APP Center のサポート <ul style="list-style-type: none"> * App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。 - @BIOS - EasyTune - EZ Setup - USB Blocker ◆ ON/OFF Charge のサポート

	バンドルされたソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン) Intel® Rapid Start Technology Intel® Smart Connect Technology Intel® Small Business Advantage
	オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> Windows 8/7 のサポート
	フォームファクタ	<ul style="list-style-type: none"> マイクロ ATX フォームファクタ、24.4cm x 22.5cm

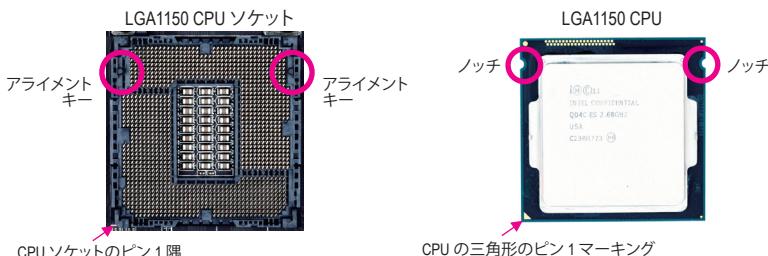
* GIGABYTEは、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。
 * GIGABYTEのWebサイトにある[Support & Downloads Utility](#)ページにアクセスし、「独自機能」と「バンドルされたソフトウェア」の欄にリストされたソフトウェアがサポートするオペレーティングシステムをご確認ください。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け

- CPUを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:
- 
- マザーボードがCPUをサポートしていることを確認してください。
(最新のCPUサポートリストについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
 - ハードウェアが損傷する原因となるため、CPUを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
 - CPUのピン1を探します。CPUは間違った方向には差し込むことができません。(または、CPUの両側のノッチとCPUソケットのアライメントキーを確認します。)
 - CPUの表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
 - CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータのパワーをオンにしないでください。CPUが損傷する原因となります。
 - CPUの仕様に従って、CPUのホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

CPUを取り付ける

マザーボードCPUソケットのアライメントキーおよびCPUのノッチを確認します。



-  CPUを取り付ける前にCPUソケットカバーを取り外さないで下さい。先にCPUをCPUソケットに取り付けた後に、ロードプレートを元に戻すと自動的にCPUソケットカバーは外れます。

1-4 メモリの取り付け

- メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:
- 
- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
 - ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
 - メモリモジュールは取り付け位置を間違えぬようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには4つのDDR3メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を2倍に拡げます。4つのDDR3メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように2つのメモリソケットがあります：

- チャンネルA:DDR3_2, DDR3_4
- チャンネルB:DDR3_1, DDR3_3

CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

1. DDR3メモリモジュールが1枚のみ取り付けられている場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
2. 2または4枚のモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているとき、同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用するようにお勧めします。最適なパフォーマンスを発揮するために、2枚のメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているときは、DDR3_1とDDR3_2ソケットにそれらのモジュールを取り付けることをお勧めします。

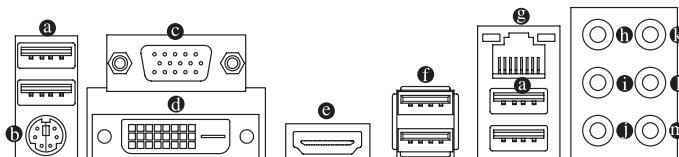
1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 背面パネルのコネクター



a) USB 2.0/1.1 ポート

USBポートはUSB 2.0/1.1仕様をサポートします。USBキーボード/マウス、USBプリンタ、USBフラッシュドライブなどのUSBデバイスの場合、このポートを使用します。

b) PS/2キーボード/マウスピート

このポートを使用して、PS/2マウスまたはキーボードを接続します。

c) D-Sub ポート

D-SubポートはD-Sub仕様に準拠しており、1920x1200の最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります。)D-Sub接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

d) DVI-D ポート (注)

DVI-DポートはDVI-D仕様に準拠しており、1920x1200の最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります。)DVI-D接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

e) HDMI ポート

HDMI™ HDMIポートはHDCPに対応し、ドルビーTrueHDおよびDTS HDマスター・オーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/24ビットの8チャンネルLPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は4096x2160ですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。

(注) DVI-Dポートは、変換アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。

オンボードグラフィックスに対するトリプルディスプレイ構成:

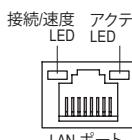
トリプルディスプレイ構成は、OSにマザーボードドライバをインストール後にサポートされます。BIOSセットアップまたはPOST動作時は、デュアルディスプレイ構成のみがサポートされます。

① USB 3.0/2.0 ポート

USB 3.0 ポートは USB 3.0 仕様をサポートし、USB 2.0/1.1 仕様と互換性があります。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

② RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。



接続/速度 LED アクティビティ LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

③ センター/サラウンドスピーカーアウト (オレンジ)

このオーディオジャックを使って、5.1/7.1 チャンネルオーディオ構成のセンター/サブウーファースピーカーを接続します。

④ リアスピーカーアウト (黒)

このジャックは 4/5.1/7.1 チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

⑤ サイドスピーカーアウト (グレー)

このオーディオジャックを使用して、7.1 チャンネルオーディオ設定のサイドスピーカーを接続します。

⑥ ラインイン (青)

デフォルトのラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑦ ラインアウト (緑)

デフォルトのラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックは 4/5.1/7.1 チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

⑧ マイクイン (ピンク)

デフォルトのマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

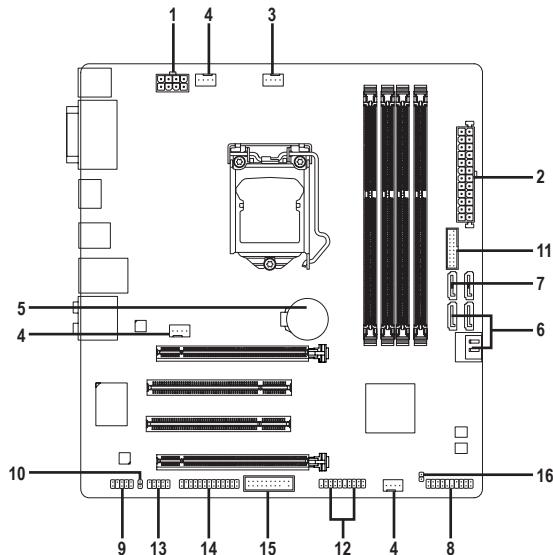


オーディオジャックをオーディオソフトウェアを介して異なる機能を実行するように再構成することができます。マイクだけは、デフォルトのマイクインジャックに接続する必要があります。



- 背面パネルコネクターに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクターから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクター内部でショートする原因となるので、横に振り動かさないでください。

1-7 内部コネクター



1) ATX_12V_2X4	9) F_AUDIO
2) ATX	10) SPDIF_O
3) CPU_FAN	11) F_USB30
4) SYS_FAN1/SYS_FAN2/SYS_FAN3	12) F_USB1/2
5) BAT	13) COM
6) SATA3 0/1/2/3	14) LPT
7) SATA2 0/1	15) TPM
8) F_PANEL	16) CLR_CMOS



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

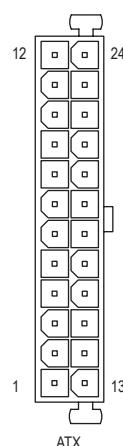
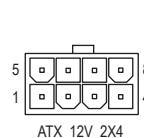
- まず、デバイスが接続するコネクターに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクターにしっかりと接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V_2X4/ATX (2x4 12V 電源コネクターと 2x12 メイン電源コネクター)

電源コネクターを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクターを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクターは、正しい向きでしか取り付けができるないように設計されております。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクターに接続します。

12V 電源コネクターは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクターが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

 拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします(500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



ATX_12V_2X4:

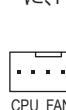
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	GND (2x4 ピン 12V のみ)	5	+12V (2x4 ピン 12V のみ)
2	GND (2x4 ピン 12V のみ)	6	+12V (2x4 ピン 12V のみ)
3	GND	7	+12V
4	GND	8	+12V

ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン / オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN1/SYS_FAN2/SYS_FAN3 (ファンヘッダ)

このマザーボードのファンヘッダはすべて4ピンです。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクターウイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PCケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。

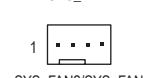


CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御



SYS_FAN1/SYS_FAN2/SYS_FAN3:

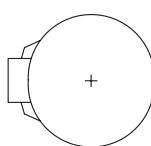


ピン番号	定義
1	GND
2	+12V / 速度制御
3	検知
4	VCC

- 
- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
 - これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値(BIOS 設定、日付、および時刻情報など)を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。CMOS 値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます:

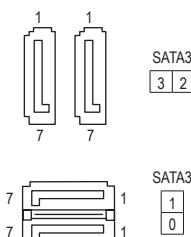
1. コンピュータのパワーをオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1分待ちます。(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5秒間ショートせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、破裂する恐れがあります。
- バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはつきり分からぬ場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側(+)とマイナス側(-)の方向に注意してください(プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

6) SATA3 0/1/2/3 (SATA 6Gb/sコネクター)

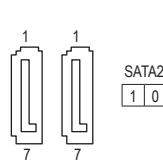
SATA コネクターはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクターは、単一の SATA デバイスをサポートします。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

7) SATA2 0/1 (SATA 3Gb/sコネクター)

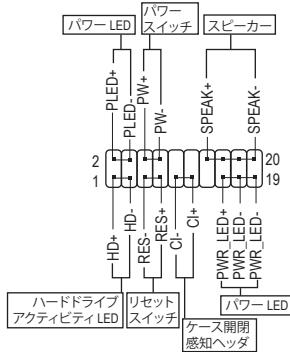
SATA コネクターはSATA 3Gb/s に準拠し、SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクターは、単一の SATA デバイスをサポートします。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

8) F_PANEL (前面パネルヘッダ)

下記のピン割り当てに従い、パワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカー、PCケース開閉感知スイッチ、ケースのインジケーター（パワーLEDやHDD LEDなど）を接続します。接続する際には、+と-のピンに注意してください。



• PLED/PWR_LED (電源LED):

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケーターに接続します。システムが作動しているとき、LEDはオンになります。システムがS3/S4スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき（S5）、LEDはオフになります。

• PW (パワースイッチ):

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケーターに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます（詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」、「電力管理」を参照してください）。

• Speaker (スピーカー):

PCケースの前面パネル用スピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が1度鳴ります。

• HD (ハードドライブアクティビティLED):

PCケース前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LEDはオンになります。

• RES (リセットスイッチ):

PCケース前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

• CI (ケース開閉感知ヘッダ):

PCケースカバーが取り外されている場合、PCケースの検出可能なPCケース開閉感知スイッチ/センサーに接続します。この機能は、PCケース侵入スイッチ/センサーを搭載したPCケースを必要とします。

前面パネルのデザインは、ケースによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。ケース前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

9) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intelハイデフィニションオーディオ (HD) とAC'97オーディオをサポートします。PCケース前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクターのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクターとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。

HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	GND
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	GND

AC'97 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC パワー
4	NC
5	ラインアウト（右）
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト（左）
10	NC

- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準で HD オーディオをサポートしています。
 • オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。
 • PCケースの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一コネクターの代わりに各ワイヤのコネクターを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、PCケースメーカーにお問い合わせください。

10) SPDIF_O (S/PDIFアウトヘッダ)

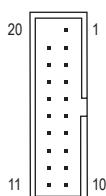
このヘッダはデジタルS/PDIFアウトをサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/PDIFデジタルオーディオケーブル(拡張カードに付属)を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMIディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/PDIFデジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。S/PDIFデジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。



ピン番号	定義
1	SPDIFO
2	GND

11) F_USB30 (USB 3.0/2.0 ヘッダ)

ヘッダはUSB 3.0/2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.0/2.0対応2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルでの購入については、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	11	D2+
2	SSRX1-	12	D2-
3	SSRX1+	13	GND
4	GND	14	SSTX2+
5	SSTX1-	15	SSTX2-
6	SSTX1+	16	GND
7	GND	17	SSRX2+
8	D1-	18	SSRX2-
9	D1+	19	VBUS
10	NC	20	ピンなし

12) F_USB1/2 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダはUSB 2.0/1.1仕様に準拠しています。各USBヘッダは、オプションのUSBプラケットを介して2つのUSBポートを提供できます。オプションのUSBプラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	電源(5V)	6	USB DY+
2	電源(5V)	7	GND
3	USB DX-	8	GND
4	USB DY-	9	ピンなし
5	USB DX+	10	NC



- IEEE 1394 プラケット(2x5ピン)ケーブルをUSB 2.0/1.1ヘッダに差し込まないでください。
- USBプラケットを取り付ける前に、USBプラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

13) COM (シリアルポートヘッダ)

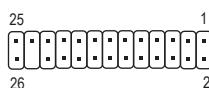
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	NDCD-	6	NDSR-
2	NSIN	7	NRTS-
3	NSOUT	8	NCTS-
4	NDTR-	9	NRI-
5	GND	10	ピンなし

14) LPT (パラレルポートヘッダ)

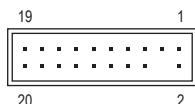
LPT ヘッダは、オプションの LPT ポートケーブルによって 1 つのパラレルポートを利用できます。オプションの LPT ポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	STB-	14	GND
2	AFD-	15	PD6
3	PD0	16	GND
4	ERR-	17	PD7
5	PD1	18	GND
6	INIT-	19	ACK-
7	PD2	20	GND
8	SLIN-	21	BUSY
9	PD3	22	GND
10	GND	23	PE
11	PD4	24	ピンなし
12	GND	25	SLCT
13	PD5	26	GND

15) TPM (TPMモジュール用ヘッダー)

TPM (TPMモジュール) をこのヘッダーに接続できます。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	LCLK	11	LAD0
2	GND	12	GND
3	LFRAME	13	NC
4	ピンなし	14	ID
5	LRESET	15	SB3V
6	NC	16	SERIRQ
7	LAD3	17	GND
8	LAD2	18	NC
9	VCC3	19	NC
10	LAD1	20	SUSCLK

15) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパ)

このジャンパを使用して BIOS 設定をクリアするとともに、CMOS 値を出荷時設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ドライバーのような金属製品を使用して2つのピンに数秒間触れます。

オープン:Normal

ショート:CMOS のクリア



- CMOS 値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS 設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

第 2 章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。



- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたは CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。
(サンプル BIOS バージョン:D9)



機能キー

BIOS セットアッププログラムのメインメニューで、矢印キーを押して項目間を移動し、<Enter>キーを押して確定するかまたはサブメニューに入ります。または、お使いのマウスで希望する項目を選択することができます。



- システムが安定しないときは、Load Optimized Defaults を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です。項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

2-2 M.I.T.

The screenshot shows the GIGABYTE - UEFI DualBIOS interface. At the top, there are icons for M.I.T., System, BIOS Features, Peripherals, Power Management, and Save & Exit. Below these are language options: English and Q-Flash. The main menu on the left includes: M.I.T. Current Status, Advanced Frequency Settings, Advanced Memory Settings, Advanced Voltage Settings, PC Health Status, and Miscellaneous Settings. The status window on the right displays various system parameters:

Parameter	Value
BIOS Version	D9
DCLK	99.75MHz
CPU Frequency	3000.32MHz
Memory Frequency	1336.55MHz
Total Memory Size	1024MB
CPU Temperature	44.0°C
Vcore	1.140V
DRAM Voltage	1.538V

Below the status window is a help text block:

++: Select Screen T/L/Click: Select Item
Enter/Dbl Click: Select
-/+/Up/Down: Change Opt.
F1 : General Help
F5 : Previous Values
F7 : Optimized Defaults
F9 : Q-Flash
F9 : System Information
F10 : Save & Exit
F12 : Print Screen(FAT16/32 Format Only)
ESC/Right Click: Exit

Copyright © 2012 American Megatrends, Inc.

表示内容については、BIOS バージョン、CPU ベースクロック、CPU 周波数、メモリ周波数、合計メモリサイズ、CPU 温度、Vcore、およびメモリ電圧に関する情報が表示されます。



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違って設定して動作させると CPU、チップセット、またはメモリが損傷しこれらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤った BIOS 設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

- ▶ **M.I.T.Current Status (M.I.T 現在のステータス)**
このセクションには、CPU/メモリ周波数/パラメータに関する情報が載っています。
- ▶ **Advanced Frequency Settings (周波数の詳細設定)**
 - ⌚ **Processor Graphics Clock**
オンボードグラフィックスクロックを設定できます。調整可能な範囲は 400 MHz～4000 MHz の間です。(既定値:Auto)
 - ⌚ **CPU Clock Ratio**
取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。
 - ⌚ **CPU Frequency**
現在作動している CPU 周波数を表示します。
- ▶ **Advanced CPU Core Features (CPUの詳細設定)**
 - ⌚ **CPU Clock Ratio, CPU Frequency**
上の項目の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目と同期しています。
 - ⌚ **CPU PLL Selection**
CPU PLLを設定します。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
 - ⌚ **Filter PLL Level**
フィルター PLLを設定します。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
 - ⌚ **Uncore Ratio**
CPU の Uncore ratio を設定できます。調整可能範囲は、使用される CPU によって異なります。
 - ⌚ **Uncore Frequency**
現在の CPU Uncore 周波数を表示します。
 - ⌚ **Intel(R) Turbo Boost Technology (注)**
Intel CPU Turbo Boost テクノロジー機能の設定をします。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
 - ⌚ **Turbo Ratio (1-Core Active~4-Core Active) (注)**
さまざまな数のアクティブなコアに対して、CPU Turbo比を設定できます。Auto では、CPU 仕様に従って CPU Turbo 比を設定します。(既定値:Auto)
 - ⌚ **Turbo Power Limit (Watts)**
CPU Turboモードの電力制限を設定できます。CPU の消費電力がこれらの指定された電力制限を超えると、CPU は電力を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。Auto では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値:Auto)
 - ⌚ **Core Current Limit (Amps)**
CPUTurbo モードの電流制限を設定できます。CPU の電流がこれらの指定された電流制限を超えると、CPU は電流を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。Auto では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値:Auto)
 - ⌚ **CPU Core Enabled (注)**
すべての CPU コアの機能を設定できます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- ☞ **Hyper-Threading Technology** (注1)
この機能をサポートする Intel® CPU 使用時にマルチスレッディングテクノロジーの有効/無効を切り替えます。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **CPU Enhanced Halt (C1E)** (注1)
システム一時停止状態時の省電力機能で、Intel® CPU Enhanced Halt (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **C3/C6 State Support** (注1)
システムが停止状態になっているとき、CPU が C3/C6 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C3/C6 状態は、C1 より省電力状態がはるかに強化されています。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **CPU Thermal Monitor** (注1)
CPU 過熱保護機能である Intel® Thermal Monitor 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU が過熱すると、CPU コア周波数と電圧が下がります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **CPU EIST Function** (注1)
エンハンスト Intel® Speed Step 技術 (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU 負荷によっては、Intel EIST 技術は CPU 電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、消費電力と熱発生量を低下させます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** (注2)
有効にすると、BIOS が XMP メモリモジュールの SPD データを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。
 - » Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - » Profile1 プロファイル 1 設定を使用します。
 - » Profile2 (注2) プロファイル 2 設定を使用します。
- ☞ **System Memory Multiplier**
システム メモリマルチプライヤの設定が可能になります。Auto は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **Memory Frequency (MHz)**
最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2 番目の値は **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。

(注1) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

(注2) この機能をサポートする CPU とメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

- ▶ **Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)**
- ☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)**^(注)、**System Memory Multiplier, Memory Frequency(MHz)**
上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューと同じ項目と同期しています。
- ☞ **Performance Enhance**
システムは、異なる3つのパフォーマンス レベルで動作できるようになります。
 - » Normal システムを基本のパフォーマンス レベルで動作させます。
 - » Turbo 良好なパフォーマンスレベルでシステムを操作します。(既定値)
 - » Extreme 最高のパフォーマンスレベルでシステムを操作します。
- ☞ **DRAM Timing Selectable**
Quick と **Expert** では、**Channel Interleaving**、**Rank Interleaving**、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション: **Auto** (既定値)、**Quick**、**Expert**。
- ☞ **Profile DDR Voltage**
XMP未対応メモリモジュールを使用しているとき、または **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** が **Disabled** に設定されているとき、この項目は **1.50V** として表示されます。**Extreme Memory Profile (X.M.P.)** が **Profile 1** または **Profile 2** に設定されているとき、この項目はXMPメモリのSPDデータに基づく値を表示します。
- ☞ **Profile VTT Voltage**
ここに表示される値は、使用されるCPUによって異なります。
- ☞ **Channel Interleaving**
メモリチャネルのインターリービングの有効/無効を切り替えます。Enabled化すると、システムはメモリのさまざまなチャネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: **Auto**)
- ☞ **Rank Interleaving**
メモリランクのインターリービングの有効/無効を切り替えます。Enabled にすると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: **Auto**)

▶ **Channel A/B Timing Settings (チャンネル A/B のタイミング設定)**

このサブメニューでは、メモリの各チャネルのメモリ タイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、**DRAM Timing Selectable** が **Quick** または **Expert** の場合のみ設定可能です。注: メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてください。

▶ **Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)**

▶ **CPU Core Voltage Control (CPU コア電圧制御)**

このセクションでは、CPU 電圧制御オプションについて記載します。

▶ **Chipset Voltage Control (チップセットの電圧制御)**

このセクションでは、チップセット電圧制御オプションについて記載します。

▶ **DRAM Voltage Control (DRAM 電圧制御)**

このセクションでは、メモリ電圧制御オプションについて記載します。

(注) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

- ▶ **PC Health Status**
- **Reset Case Open Status**
 - » Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
 - » Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。
- **Case Open**

マザーボードの CI ヘッダに接続された PC ケース開閉感知の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を Enabled にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。
- **CPU Vcore/CPU VRIN/DRAM Voltage/+3.3V/+5V/+12V/CPU VAXG**

現在のシステム電圧を表示します。
- **CPU/System Temperature**

現在の CPU/システムの温度を表示します。
- **CPU/System FAN Speed**

現在の CPU/システムのファン速度を表示します。
- **CPU Warning Temperature**

CPU 温度警告のしきい値を設定します。CPU の温度がしきい値を超えた場合、BIOS が警告音を発します。オプション：Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。
- **CPU Fan Speed Control**

CPU_FAN コネクターに接続されたシステムファンに対する CPU ファンの速度制御機能を有効にするかどうかを決定して、ファン速度を調整できます。

 - » Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTune でファン速度を調整することができます。(既定値)
 - » Silent ファンを低速度で作動します。
 - » Manual **Slope PWM** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - » Disabled ファンを全速で作動します。
- **Slope PWM**

ファン速度をコントロールします。**CPU Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション：0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- **1st System Fan Speed Control (SYS_FAN1 コネクター)**

SYS_FAN1コネクターに接続されたシステムファンに対するCPUファンの速度制御機能を有効にするかどうかを決定して、ファン速度を調整できます。

 - » Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTune でファン速度を調整することができます。(既定値)
 - » Silent ファンを低速度で作動します。
 - » Manual **Slope PWM** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - » Disabled ファンを全速で作動します。
- **Slope PWM**

ファン速度をコントロールします。**1st System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション：0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- **2nd/3rd System Fan Speed Control (SYS_FAN2/ SYS_FAN3 コネクター)**

SYS_FAN2/SYS_FAN3コネクターに接続されたシステムファンに対するCPUファンの速度制御機能を有効にするかどうかを決定して、ファン速度を調整できます。

 - » Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTune でファン速度を調整することができます。(既定値)
 - » Silent ファンを低速度で作動します。

- » Manual **Slope PWM** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
- » Disabled ファンを全速で作動します。
- ☞ **Slope PWM**
ファン速度をコントロールします。2nd/3rd System Fan Speed Control が Manual に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /C ~ 2.50 PWM value /C。
- ▶ **Miscellaneous Settings (その他の設定)**
- ☞ **PEG Gen3 Slot Configuration**
PCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、またはGen 3に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。例えば、PCI Express x1スロットは、Gen 2モードまでのみサポートしています。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **Legacy BenchMark Enhancement**
一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。(既定値:Disabled)

2-3 System (システム)



このセクションでは、CPU、メモリ、マザーボード モデル、および BIOS バージョンの情報について記載します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

- ☞ **System Language**
BIOS が使用する既定の言語を選択します。
- ☞ **System Date**
システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。
- ☞ **System Time**
システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:0:0 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

⌚ Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセスレベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では **Administrator (管理者)** として表示されます。) 管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することができます。ユーザー レベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

2-4 BIOS Features (BIOS の機能)



⌚ Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。例えば、ハードドライブを優先度 1 (Boot Option #1) に設定し、DVD ROM ドライブを優先度 2 (Boot Option #2) に設定します。リストは、認識されているデバイスの優先度が高い順を表示します。例えば、**Hard Drive BBS Priorities** サブメニューで優先度 1 と設定されたハードドライブのみがここに表示されます。起動デバイスリストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージ デバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーティショニングをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 7 (64 ビット) など GPT パーティショニングをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

⌚ Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities

ハードドライブ、光ドライブ、フロッピーディスク ドライブ、LAN 機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイスタイプの起動順序を指定します。このアイテムで <Enter> を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。少なくともこのタイプのデバイスが 1 個インストールされている場合のみ、この項目が表示されます。

⌚ Bootup NumLock State

POST 後にキーボードの数字キーパッドにある NumLock 機能の有効/無効を切り替えます。
(既定値: Enabled)

⌚ Security Option

パスワードは、システムが起動時、または BIOS セットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの Administrator Password/User Password アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶ **Setup** パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
 - ▶ **System** パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)
- ⌚ **Full Screen LOGO Show**
システム起動時に、GIGABYTEロゴの表示設定をします。**Disabled** になると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。(既定値:Enabled)
- ⌚ **Fast Boot**
Fast Boot を有効または無効にして OS の起動処理を短縮します。**Ultra Fast** では起動速度が最速になります。(既定値:Disabled)
- ⌚ **VGA Support**
起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。
 - ▶ **Auto** 従来のオプション ROM のみを有効にします。
 - ▶ **EFI Driver** EFI オプション ROM を有効にします。(既定値)この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。
- ⌚ **USB Support**
 - ▶ **Disabled** OS ブートプロセスが完了するまで、全 USB デバイスは無効になっています。
 - ▶ **Full Initial** オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。
 - ▶ **Partial Initial** OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になっています。(既定値)**Fast Boot** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。
- ⌚ **PS2 デバイスのサポート**
 - ▶ **Disabled** OS ブートプロセスが完了するまで、全 PS2 デバイスは無効になっています。
 - ▶ **Full Initial** オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 PS2 デバイスは機能します。(既定値)**Fast Boot** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。
- ⌚ **NetWork スタックドライバのサポート**
 - ▶ **Disabled** ネットワークからのブートを無効にします。(既定値)
 - ▶ **Enabled** ネットワークからのブートを有効にします。この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。
- ⌚ **Limit CPUID Maximum** (注)
CPUID 最大値の制限設定を行います。Windows XP ではこのアイテムを **Disabled** に設定し、Windows NT4.0 など従来のオペレーティングシステムでは **Enabled** に設定します。(既定値:Disabled)
- ⌚ **Execute Disable Bit** (注)
Intel® Execute Disable Bit (Intelメモリ保護) 機能の有効/無効を切り替えます。この機能は、コンピュータの保護を拡張して、サポートするソフトウェアおよびシステムと一緒に使用することでウイルスの放出および悪意のあるバッファのオーバーフロー攻撃を減少させることができます。(既定値:Enabled)
- ⌚ **Intel Virtualization Technology** (注)
Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。Intel®仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値:Enabled)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- ⌚ **Intel TXT(LT) Support**^(注)
Intel® Trusted Execution Technology (Intel® TXT) を有効または無効にします。Intel® Trusted Execution Technology は、ハードウェアベースのセキュリティを提供します。(既定値:Disabled)
- ⌚ **VT-d**^(注)
Directed I/O 用 Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ⌚ **OS Type**
インストールするオペレーティングシステムを選択することができます。Windows 8 ではこのアイテムを Windows 8 に設定します。(既定値:Other OS)
- ⌚ **CSM Support**
従来のPC起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。
 - ▶ Always UEFI CSMを有効にします。(既定値)
 - ▶ Never UEFI CSMを無効にし、UEFI BIOS起動プロセスのみをサポートします。OS Type が Windows 8 または Windows 8 WHQL に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ⌚ **Boot Mode Selection**
起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。
 - ▶ UEFI and Legacy 従来のオプションROMまたはUEFIのオプションROMをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。(既定値)
 - ▶ Legacy Only 従来のオプションROMのみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。
 - ▶ UEFI Only UEFIのオプションROMのみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。CSM Support が Always に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ⌚ **LAN PXE Boot Option ROM**
LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。(既定値:Disabled)
CSM Support が Always に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ⌚ **Storage Boot Option Control**
ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。
 - ▶ Disabled オプションROMを無効にします。
 - ▶ UEFI Only UEFIのオプションROMのみを有効にします。
 - ▶ Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
 - ▶ Legacy First レガシーのオプションROMを先に有効にします。
 - ▶ UEFI First UEFIのオプションROMを先に有効にします。CSM Support が Always に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ⌚ **Other PCI Device ROM Priority**
LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFI またはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。
 - ▶ UEFI OpROM UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
 - ▶ Legacy OpROM 従来のオプションROMのみを有効にします。
- ⌚ **Network stack**
Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- ☞ **Ipv6 PXE Support**
IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。Network stack が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- ☞ **Ipv4 PXE Support**
IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。Network stack が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- ☞ **Administrator Password**
管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイブし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード（またはユーザー パスワード）を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。
- ☞ **User Password**
ユーザー パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード（またはユーザー パスワード）を入力する必要があります。しかし、ユーザー パスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。
パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

2-5 Peripherals (周辺機器)



- ☞ **Init Display First**
取り付けたPCIグラフィックスカード、PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードVGA から、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。
 - » **IGFX** 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
 - » **PCIe 1 Slot** 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。(既定値)
 - » **PCIe 2 Slot** 最初のディスプレイとして、PCIEX4 スロットにあるグラフィックカードを設定します。

- ▶ PCI PCI スロットにあるグラフィックスカードを最初に処理するディスプレイカードとして設定します。
- ☛ **XHCI Mode**
 - OSのxHCIコントローラーのオペレーティングモードを決定できます。
 - ▶ Smart Auto BIOSがブート前環境でxHCIコントローラーをサポートしている場合のみこのモードが使用可能です。このモードはAutoに類似していますが、ブート前環境で(非G3ブートの場合)前回ブート時に使用した設定に従ってxHCIまたはEHCIにポートをルーティングする機能を追加します。OSの起動前にUSB 3.0デバイスの使用が可能になります。前回のブートでポートをEHCIにルーティングした場合、xHCIコントローラーの有効化とリルーティングは、Autoのステップに従って行います。注:BIOSがxHCIの起動前サポートに対応している場合に推奨するモードです。(既定値)
 - ▶ Auto BIOSは、共有ポートをEHCIコントローラーにルーティングします。続いて、ACPIプロトコルを用いてxHCIコントローラーの有効化と共有ポートのリルーティングを可能にするオプションを提供します。注:BIOSがxHCIのブート前サポートに対応していない場合に推奨するモードです。
 - ▶ Enabled 結果として、すべての共有ポートがBIOSの起動プロセス中にxHCIコントローラーにルーティングされます。BIOSがxHCIコントローラーの起動前サポートに対応していない場合、最初は共有ポートをEHCIコントローラーにルーティングし、その後OSブートの前にポートをxHCIコントローラーにルーティングする必要があります。注:このモードではOSがxHCIコントローラーにサポートしている必要があります。OSがサポートしていない場合、すべての共有ポートが動作しません。
 - ▶ Disabled USB 3.0ポートはEHCIコントローラーにルーティングし、xHCIコントローラーをオフにします。すべてのUSB 3.0デバイスは、xHCIソフトウェアのサポートが可能かに関係なく高速デバイスとして機能します。
 - ▶ Manual OSの起動前にUSB 3.0ポートをxHCIまたはEHCIコントローラーにルーティングするかを決定します。また、各USB 3.0/2.0ポートをxHCIまたはEHCIに手動ルーティングするオプションが設けられています。
- ☛ **Audio Controller**
 - オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Auto)
 - オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製拡張オーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- ☛ **Internal Graphics**
 - オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☛ **Internal Graphics Memory Size**
 - オンボードグラフィックスのメモリサイズを設定できます。オプション:32M~1024M。(既定値:64M)
- ☛ **DVMT Total Memory Size**
 - オンボードグラフィックスのDVMTメモリサイズを割り当てるすることができます。オプション:128M、256M、MAX。(既定値:MAX)
- ☛ **Intel(R) Rapid Start Technology**
 - Intel® Rapid Start テクノロジーを有効または無効にします。(既定値:Disabled)
- ☛ **Legacy USB Support**
 - USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値:Enabled)
- ☛ **XHCI Hand-off**
 - XHCIハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムのXHCIハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値:Enabled)

- ☞ **EHCI Hand-off**
EHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの EHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値:Disabled)
 - ☞ **USB Storage Devices**
接続されたUSB大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。(既定値:Auto)
 - ☞ **OnBoard LAN Controller#1**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、カードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。
-
- ▶ **SATA Configuration**
 - ☞ **SATA Controller(s)**
統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
 - ☞ **SATA Mode Selection**
Intel® B85 チップセットに統合された SATA コントローラー用の RAID の有効 / 無効を切り替えるか、SATA コントローラーを AHCI モードに構成します。
 - ▶ IDE SATA コントローラーを IDE モードに構成します。
 - ▶ AHCI SATA コントローラーを AHCI モードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバが NCQ (ネイティブ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどの高度なシリアル ATA 機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)
-
- ▶ **Serial ATA Port 0/1/2/3/4/5**
 - ☞ **Port 0/1/2/3/4/5**
各SATAポートを有効または無効にします。(既定値:Enabled)
 - ☞ **Hot plug**
各SATAポートのホットプラグ機能を有効または無効にします。(既定値:Disabled)
-
- ▶ **Super IO Configuration (スーパー I/Oの構成)**
このセクションでは、スーパー I/O チップ上の情報を提供し、シリアルポートとパラレルポートを設定します。
 - ☞ **Serial Port A**
オンボードシリアルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
 - ☞ **Parallel Port**
オンボード/パラレルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
 - ☞ **Device Mode**
Parallel Port が Enabled に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オンボード (LPT) ポート用のオペレーティングモードを選択します。(既定値)、EPP Mode (Enhanced Parallel Port)、ECP Mode (Extended Capabilities Port)、EPP Mode & ECP Mode。
-
- ▶ **Intel(R) Smart Connect Technology (Intel(R) Smart Connect テクノロジー)**
 - ☞ **ISCT Support**
Intel® Smart Connect Technology の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)
-
- ▶ **Realtek PCIe GBE Family Controller**
このサブメニューは、LAN 設定に関する情報を提供します。

2-6 Power Management (電力管理)



⌚ Resume by Alarm

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値:Disabled)

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

» Wake up day:ある月の毎日または特定日の特定の時間にシステムをオンにします。

» Wake up hour/minute/second:自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注:この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたはAC電源の取り外しを避けて下さい、そうしない場合設定が有効にならないことがあります。

⌚ ErP

S5(シャットダウン)状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値:Disabled)

注:このアイテムをEnabledに設定すると、次の機能が使用できなくなります。PMEイベントからの起動、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LANからの起動。

⌚ Soft-Off by PWR-BTTN

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

» Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)

» Delay 4 Sec 電源ボタンを 4 秒間長押しすると、システムの電源がオフになります。パワー ボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

⌚ RC6(Render Standby)

オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値:Enabled)

⌚ AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

» Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。

» Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。

» Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままで。(既定値)

⌚ Power On By Keyboard

PS/2 キーボードからの入力によりシステムの電源をオンにすることが可能です。

注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

» Disabled この機能を無効にします。(既定値)

» Password 1~5 文字でシステムをオブンにするためのパスワードを設定します。

» Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。

» Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。

⌚ Power On Password

Power On by Keyboard が Password に設定されているとき、パスワードを設定します。

このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオブンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注:パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

⌚ Power On By Mouse

PS/2 マウスからの入力により、システムをオブンにします。

注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

» Disabled この機能を無効にします。(既定値)

» Move マウスを移動させてシステムの電源をオブンにします。

» Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオブンになります。

2-7 Save & Exit (保存して終了)



⌚ Save & Exit Setup

この項目で <Enter> を押し、Yes を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。No を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

⌚ Exit Without Saving

この項目で <Enter> を押し、Yes を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。No を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

☞ **Load Optimized Defaults**

この項目で <Enter> を押し、**Yes**を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。

☞ **Boot Override**

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes**を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。

☞ **Save Profiles**

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 4 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1～セットアッププロファイル 4 として保存することができます。<Enter> を押して終了します。

☞ **Load Profiles**

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押して完了します。

第3章 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。(以下の指示は、例として Windows 8 オペレーティングシステムを使用します。)
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。画面右上隅のメッセージ「このディスクの操作を選択するにはタップしてください」をクリックし、「Run.exe の実行」を選択します。(またはマイコンピュータで光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

「Xpress Install」はシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。Xpress Install ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が選択されたすべてのドライバをインストールします。または、矢印 アイコンをクリックすると、必要なドライバを個別にインストールします。

規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることになります。当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとします。しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに対する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS(電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE(廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的な安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd, Pb, Hg, Cr+6, PBDE, PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にある場合は梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- ◆ 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- ◆ 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装(運送用コインテナを含む)をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。

- 35 -



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス: No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL:+886-2-8912-4000、ファックス+886-2-8912-4005

技術および非技術。サポート(販売/マーケティング): <http://ggts.gigabyte.com.tw>

WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

GIGABYTE Webサイトにアクセスし、Webサイトの右上にある言語リストで言語を選択することができます。

• GIGABYTEグローバルサービスシステム



技術的または技術的でない(販売/マーケティング)質問を送信するには:
<http://ggts.gigabyte.com.tw>
にアクセスし、言語を選択してシステムに入つてください。